

裾野麗峰山の会・山行報告書		文・I K	写真・G T
山行番	NO. 1 8 5 4		
日 時	2 0 2 0 年 0 2 月 0 8 日（土）上部ガス		
山 域	ハヶ岳・横岳（2 8 3 5 m）杣添尾根		
コース	海ノ口駐車場発 7：45－森林限界 10：17－三叉峰（さんじゃほう）11：40－横岳 12：00－三叉峰－展望台（昼食）13：12～40－駐車場 15：28		
標高差	上り 駐車場約 1 7 5 0 m－標高約 2 8 3 5 m＝約 1 0 8 5 m 下り //		
快適度	（5段階評価）5＝藪ない		
参加者	後藤、加藤、勝又、井上＝4名		

久しぶりの冬山登山。ハヶ岳の横岳は初めてだった。

後藤さんと加藤さんは前泊。当日朝、勝又さんに竹沢種苗店で4：40に迎えに来てもらった。約3時間の運転中、助手席で眠ってしまいました、すいません。

須玉 IC を下り、清里に入り、7:10 ごろ海ノ口別荘地着。別荘地内の道路は氷に覆われていた。すでに後藤さんと加藤さんは到着しており準備にかかっていた。冬用の靴、カップズボン、スパッツを履き、ワンタッチ用でない革靴の私は一本縛りのアイゼンを取り付ける。これで片方 1.9kg と重い。



海ノ口駐車場





7:45 駐車場スタート。雪がしっかりついた林の中の遊歩道を進む。

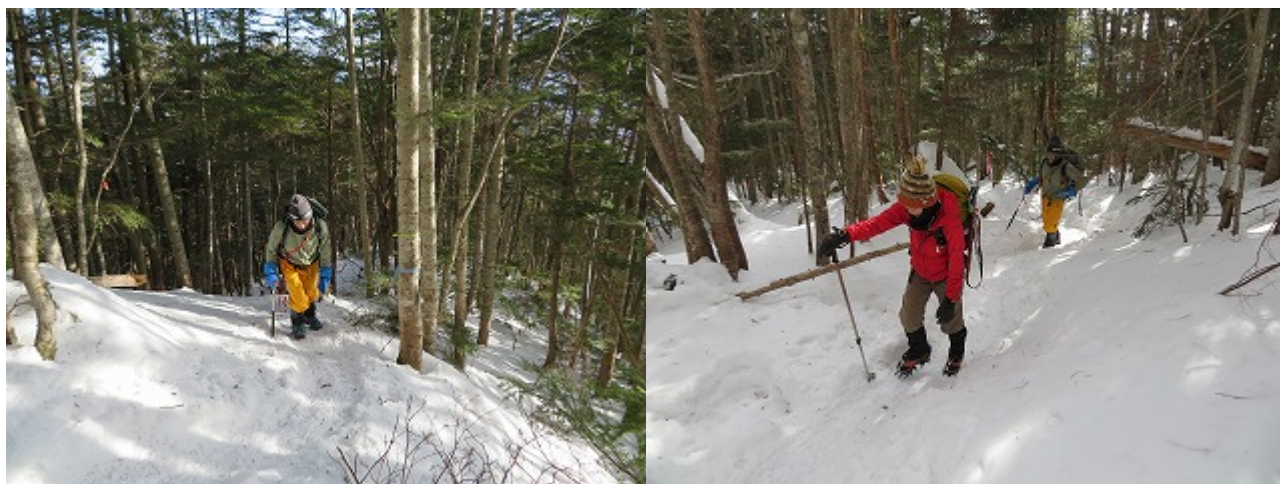
林道を横切り、表面が凍っている貯水池を通過する。北沢を渡り、樹林帯に入る。傾斜は地図の等高線ではそれほどでもないのだが、アイゼンをつけているからか、予想以上にきつい。

勝又さんは写真を撮るからと言って最後尾を歩くが、徐々に離れていった。後藤さんは、今日はベストコンディションで最高に歩きやすいと言う。この冬に何度も雪山を歩いている後藤さんはそう感じるが、久しぶりの本格雪山である私には、歩きにくい。

最初から息は荒く、足は重い。4時間も持つのだろうか。余談だが、この1週間、先週の富士山スキーでできた靴ずれのためにずっとサンダルで過ごし、一日1万歩以上を歩くようにしていたのが出来なかった。そのためか、歩きに元気がなく、息も荒くなっていたように思う。

後藤さんの後ろにぴったりとついていく加藤さんは、後藤さんの歩幅が広いのでついていくのが大変と言っていた。途中、単独の男性とすれ違い、聞くと、樹林帯まで行ったが風が強くて引き返したとのこと。少し不安になった。しばらく行くと、別の単独の男性を追い抜いた。一人でテン泊の予定とのこと。そこそこのお歳かと思ったが、60歳と聞いて思いのほか若く驚いた。ようやく2時間がたち、約半分まで来て休憩した。勝又さんはほどなくして追いつき数分の遅れだった。

徐々に木が少なくなり、粉雪が降り出した。2540m くらいで小ピークに出て細い尾根を歩く。踏み跡以外に足を置くとひざまで雪に沈む。曇りになると後藤さんの目の調子が悪くなり、雪の凹凸が見えにくくなり、速度が落ちた。



新しい看板

単独のオジサン

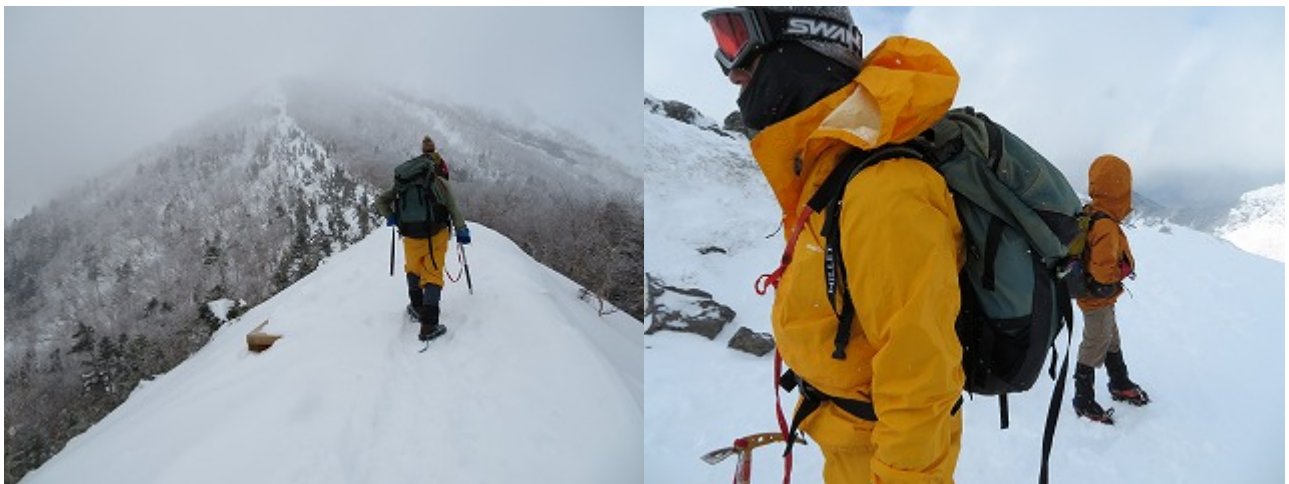


先頭を加藤さんと交代する。目の前のピーク三叉峰（さんじゃほう）手前の急登から踏み跡は消え、私が先頭になり、ラッセルを開始。思っていたよりしんどい。踏み跡がないと、雪をかき分けた後、置いた足はズルっと下がるので、上がっては下がるの繰り返しとなり、一步一步息が上がる。止まって休みたいが、一番若いのにへこたれていてはカッコ悪いので進む。途中、下ってくる4人ほどのパーティとすれ違った。

この時すでにゴーグルがほぼ凍り付いており良く見えないので、ぼやけたような画像をたよりに進んでいた。私は初めて来たというのもあるが、どこがルートかわからないので右往左往する。

私がうまくピッケルとアイゼンが使いこなせていないのを見て、加藤さんがトップになってくれた。

11:40 三叉峰到着（2825m）。



### 三叉峰



ガスの中で展望なし。加藤さんは遅れている勝又さんをフォローしに下りることにした。後藤さんは、横岳が初めての私を頂上に連れていくことになった。

あいかわらずゴーグルは凍ってほぼ見えない。良く見えないのはすごい不安だ。横岳手前のコルまで30mほどおりて、ここで後藤さんは待ち、私一人で横岳まで30m登る。短い梯子は2か所。岩をまたぐところもあった。こわごとと歩幅を狭くして安全第一を心がけて登る。

頂上には三叉峰あたりで追い抜かれた男女ペアが写真を撮り合っていた。私がひとり上がってきたが、残りの3人が続いて登ってくと思って待っていてくれた。登ってくるのが私ひとりだと分かり、一緒の



タイミングで下りることにした。このままゴーグルをしていると危ないので、雪目雪焼けを覚悟して外すことにした。すると実にくっきりと見えて不安が無くなった。しかし今度は、見えたら見えたで、道の左右が切り立っているのも見えてしまいぞっとする。

風に押されてふらついてはいけない。あわてないように集中する。後藤さんの待つコルに戻り、握手。そして三叉峰に上り返した。



横岳冬初登頂後、少し晴れ間

この往復で合計 60m 余計に上ることになる。よって累計標高差＝約 1150m になる。がんばった自分をほめてあげたい。

三叉峰からの下りも、踏み跡は降雪と風で消えており、どこを歩いてよいか分からない。先頭に行くが、またもや右往左往。やがて下のほうに加藤さんと勝又さんの姿が見えた。勝又さんは三叉峰まで行って下りてきたとのこと。加藤さんは2回三叉峰に上ったことになる。

樹林帯手前くらいの少し平らなところで昼休憩。これまでガスがかかってよく見えなかった赤岳が顔をだした。日の光を浴びて神々しく輝く。

加藤さんが使い捨てカイロを保温のスープジャーのまわりに貼りつけて、ぜんざいを持ってきてくれた。餅入りでありがたい。ビールは飲むかやめるか、すぐに決まらなかった。

あまりに寒いのと、残りの下りで足がもつれると危ないからだ。しかし、結局一本を後藤さんとわけて飲むことにした。飲んでみれば、最高のため息が出た。



これまでの緊張感と全身の疲れがビールの炭酸とアルコールをこの上ないものに変えてしまう。  
 勝又さんは梅酒のお湯割り。30分ほど休憩し下山開始。樹林帯の下りは単調で長く、とにかく耐えるのみ。肩も、おしりも、太もももひざもあちこちが痛い。  
 いつまでも同じ下り。15:20 駐車場到着。後藤さんと加藤さんは5分後に到着。15:40 片付け終わり一路長泉へ。18:30 伊豆海鮮で反省会。勝又薫さんが合流。4~5年ぶりの再会。  
 コロナウイルスが猛威を振るう中、しっかりと内側からアルコール消毒した。20:30 解散。体が痛い。







赤岳バックにイエ〜イ



昼食



伸び〜る伸び〜る温かいお汁粉



パパは、もうじき73歳





タマゴ入りラーメン



北沢の橋



帰着

#### その他の記述（G T）

1. 登山口に脇の別荘の方がいて交流。比較的若い方だったが、ずいぶん立派な別荘だった。来訪時は入口の門柱に表札がわりの大きな横看板を掛けるそうだ。冬はマイナス15度くらいになるという。来訪時は、あらかじめ管理人に連絡をして暖房を入れてもらう。別荘全体に暖房が届くに24時間かかるそうだ。管理人は、そのような希望者の鍵を持参しているそうだ。勿論、サービスは有料。防犯・見回り・除雪代等、年間、なにがしかの管理費は掛かる訳。
2. 前に大きな荷物の方がいた。聞けば、縦走でなく横岳が目的。ただ、日帰りではなく、テン泊希望とのこと。年齢は60歳。私と干支が同じかと思ったら、一歳下の「ネズミ」といった。この方とは、Iが登頂後、最初のハシゴで再びあった。聞けば「今日は横岳で帰ります」だった。
3. 三叉峰でKYが遅れた。一人はマズいので、既に横岳は何回か上っているKHに戻ってサポートして貰った。ご苦勞様。お疲れさまでした。
4. 三叉峰で前後したアベック。三叉峰の下りで先行していたにも関わらず、後ろに下がって、我々を前に出した。恐らくホワイトアウトでルートがハッキリせず、ルートを作らせたのだろう。余り露骨なのはいただけない。
5. 今回は、結構、速いタイムと思ったが、過去の記録を見たら、そうでもなかった。
6. 駐車場上の別荘門柱に小鳥が・・・で撮影したが、いつまで経っても動かない。よく見たら、模型だった。ガッカリ。

（了）